

どんぐり山行通信 乾徳山

第54号

2010年6月19日(土)

曇り

参加者 19名

鶴ヶ島



どんぐり山行会

けんとくさん (2031m)



のあたりに来ると5, 6頭の鹿が霧の木立から人間たちを窺っている。ここで昼食にする。今日も秘密の袋から、サクランボのジャム、大根のビール漬けや揚げ餅などたくさんのごちそうが続々と出てくる。休憩時のレタスはヒットだ。水分補給に最適。扇平を過ぎると高度があがって露岩が現れてくる。切り落ちたテラスを跨いで通過しようとするがつかま

バスが大平牧場までは入れないので、予定変更で手前の登山口から歩き始める。今日は長丁場だ。道沿いの徳和川は最近の雨で奔流となって川音も大きい。笛吹川伝説の権三郎母子もこんな激流に流されてしまったのだろうか。前宮神社を過ぎて舗装道路をさらに行くともうひとつの登山口から山道に入る。杉と雑木の間を黙々と登る。間もなくカジカガエルの鳴き声が山中に響き渡る。声はすれども姿は見えない。銀晶水は枯れていたが、錦晶水は少し濁っているが口にすると冷たくてうまい。やがて前が開けて国師が原に出る。橙色の蓮華つつじがたおやかに咲く。月見岩



る岩が見つからない。一瞬躊躇するが、山岳保険に入っていることを思い出して、心安らかに歩を進める。いよいよ頂上直下の鎖場に来る。皆のよじ登るのを見ていると体がだんだん硬くなって蚤の心臓が破裂しそうになる。こわばった笑いでごまかす。かじりつい



てなんとか頂上に辿り着くと吐く息は荒い。雲の合間から富士山の雪渓が縞模様になって見える。晴天なら素晴らしい展望があらわれるだろう。狭い切り立った頂上で写真のあと、下山道は藪なので多少手間取ったが又来た道に戻る。途中、黄色い小さなみやまきんばい、小ぶりのみやまつつじ、スズランをさかさまにしたようなさらさどうだんなどが目を楽しませてくれる。国師が原でも



鹿に会ってさようならをいう。5時半頃ようやく駐車場にたどりつく標高差1,200mと9時間の行程はハードだったが、雨に降られずに助かった。日が長くなったとはいえ鶴ヶ島にはとっぷりと日が暮れた8時ころに到着。(伴記)

